

韓国環境部プレスリリース 2019年12月7日付

鉄原郡(チョルウォングン) 広域フェンス内野生いのししで ASF ウイルス検出 (野生いのしし 40-41 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do;jsessionid=2tLbkMT-7WP3R-qFBlgMy05P.mehome1?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1132085&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

▷鉄原 2 件追加で 15 件目、全国的には 41 件目

▷農食品部 10km 防疫対内農家の初動防疫措置完了

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は江原道(カンウォンド)鉄原郡(チョルウォングン)葛末邑(カルマルウプ)で発見された弊死体と西面(ソミョン)で捕獲された野生いのししから ASF ウイルスが検出されたと 12 月 7 日明らかにした。

死亡野生いのししは環境部捜索チームによって 12 月 5 日午前 11 時頃、鉄原郡葛末邑(カルマルウプ)の山で発見され、捕獲した野生いのししは鉄原郡捕獲団によって 12 月 4 日午後 10 時 30 分頃、鉄原郡西面の山において銃器で捕獲された。発見・捕獲された場所は、それぞれ民間制限線から約 13 キロメートルおよび約 3 キロメートル南側で、広域フェンスの内側であった。

-鉄原郡は ASF 標準行動指針により現場を消毒し弊死体を処理した。

国立環境科学院は 12 月 6 日、血液試料で ASF ウイルス陽性の確定診断結果を関係機関に通知した。鉄原では 15 件目の ASF 陽性事例となり、全国的には 41 件となった。

現在の鉄原郡葛末邑の野生いのしし発生地点から 10 キロメートル以内で 46 農家(鉄原郡 31 戸、抱川 15 戸)が約 105,000 頭を飼養*しており、西面発生地点から 10 キロメートル以内には 12 農家(全部鉄原郡所在)が約 41,000 頭を飼養**している。

* 3 キロメートル内に農家なし/ ** 3 キロメートル内に 2 戸 5,200 頭飼養

農林畜産商品部は京義道・江原道全体の養豚農家に ASF ウイルス検出事例があった旨メッセージを送り、農場内部の消毒や柵など遮断防疫施設の点検をするよう伝えた。また、鉄原郡と抱川市(ポチョンシ)の陽性個体発見地点から 10 キロ内の農家に対しては、移動制限の措置を取ったほか、農家進入路・周辺道路・近隣河川などを集中消毒し、農場周辺の石灰散布、野生いのしし忌避剤設置など農場単位防疫措置を直ちに実施するよう指導した。

鉄原郡は10月8日から緩衝地域内の登録された畜産車両に限り農場への進入を許容しており、豚・糞尿搬出入禁止措置が持続的に実施されている。また、獣医師入会下に臨床検査を経た後屠殺出荷するようにしている。

農食品部は12月7日鉄原郡と隣接している華川郡（ファチョンゲン）抱川市に關係官を派遣して地域内農家のフェンスを点検して、消毒など防疫措置が適切になされているか確認する計画である。

環境部 ASF 総合状況室総括チーム長は“今回検出された2個体は2次フェンスの外であったが、広域フェンス内であった”とし、“迅速にフェンスを追加設置して、フェンス設置が完了する時まで発生地点近隣では銃器捕獲を制限する計画だ”と話した。